

上昇調のイントネーションで発話される 否定疑問文の意味機能

言語学・応用言語学専攻
平成 16 年入学

1LT04074R 高橋百華

2008(平成 20)年 1 月提出

要旨

若者は、しばしば否定疑問文「～ない?」「～んじゃない?」を上昇調(平板型)のイントネーションで発話する。本論文では、これらの表現がどのような意味を持ち、どのような使われ方をするのかを考察した。話し手の経験値、感動の程度、聞き手が持つ情報、文法面など様々な角度から観察した結果、「～ない?」と「～んじゃない?」は、話し手がその事柄に対して確信を持っている度合いによって使い分けられていることを明らかにした。「～ない?」は話し手自信が経験したことや直接感じていることと言った確信度の高い事柄について話す場合に使われるが、「～んじゃない?」は話し手自信は経験したことの無い確信度の低い事柄に対しても使うことができる。また、「～ない?」は、自分の意見を相手に主張し強要する手段として使われ、聞き手に働きかける力が強い。これに対し、「～んじゃない?」は話し手が予測や投げやりな意見を述べる手段として使われ聞き手に働きかける力は弱いという意味の違いも導いた。

<目次>

1.上昇調のイントネーションで発話される否定疑問文とは.....	1
1.1.「～ない？」.....	1
1.2.「～んじゃない？」.....	2
2.確信度.....	2
2.1.副詞との共記.....	4
2.2.未経験.....	4
3.感動の度合い.....	5
3.1.皮肉の意味.....	6
3.2.丁寧語.....	7
4.話し手と聞き手の知識や感情の相違.....	7
4.1.話し手と聞き手の知識の相違.....	7
4.2.話し手と聞き手の感情の相違.....	8
4.3.話し手の感情.....	9
5.文法的な観察.....	10
5.1.主語の人称による違い.....	10
5.2.品詞による違い.....	11
5.3.動詞の動作性・状態性.....	12
6.まとめ.....	15
参考文献.....	20

1.上昇調のイントネーションで発話される否定疑問文とは

若者の会話の中でよく観察される表現で、相手に同意を求めたり、自分の意見を主張する時に使われる上昇調のイントネーションを伴う否定疑問文がある。以下では、その中で「～ない？」と「～んじゃない？」に注目し、それぞれの用法を観察していく。

1.1.「～ない？」

上昇調のイントネーションを伴う否定疑問文でよく見られるものに「～ない？」という表現がある。

- (1) a. この映画面白くない？
b. この映画面白くくない？
- (2) a. この映画面白いね/よね/でしょう？
b. この映画面白くないね/よね/でしょう？

それぞれ(1)と(2)は、「面白い/くない」ということを相手に伝える文として同じ意味を表しているように見えるが、発せられた言葉の受け取り方に大きな違いがある。(1)のように上昇調の否定疑問文を使った場合には「信じられないほど、驚くほど」という、話し手の感動が込められている。また、疑問文を使っているにも関わらず、相手に尋ねるといよりは、自分の意見を伝えたい、共感してほしい、という感情が強い。それに対して(2)のような表現を使った場合には、驚きが伝わることはなく、話し手の感情まで読み取ることは難しい。もう少し感情の動きが分かりやすい例をとってみると、以下のようになる。

- (3) a. 清美かわいくない？
b. 清美かわいくくない？
- (4) a. 清美かわいいね。
b. 清美かわいくないね。

(3)で話した時と、(4)で話した時とは、明らかに伝わり方が違う。特に注目してほしいのは、それぞれのbの例文である。(3b)の場合、周りの人が「かわいい」と言っていることに対する反論としても受け取れ、話し手が清美に対して、否定的だ、という感情も感じられる等、発話された状況の背景に関する情報や、発話者自身の感情が強く込められている。しかし、(4b)では、ただ単に、「かわいくない」ということを伝えただけであり、話し手

が、どの程度そう感じているか、相手にどう伝えたいのか等の背景は分からない。

1.2. 「～んじゃない？」

また、「～ない？」と同じような使われ方をする「～んじゃない？」という表現がある。

- (5) a. この指輪、可愛くない？
b. この指輪、可愛いんじゃない？
c. この指輪、可愛いね/よね/でしょう？

(5)の文はそれぞれ同じように、「この指輪が可愛い」ということを聞き手に伝えようとしている文であるが、受け取り方や使える状況に違いがある。似た表現であるにもかかわらず、印象が変わるのはなぜだろうか。

上昇調のイントネーションを伴う否定疑問文には自分の意見を主張するなど、否定疑問文でなければ伝えられない意味がある。本論文では、「～ない？」「～んじゃない？」というよく似た印象を受ける二つの否定疑問文を比べることで、それぞれの表現の意味をはっきりさせ、上昇調イントネーションを伴う否定疑問文の意味機能について詳しく考察する。

2. 確信度

まず、以下の二つの表現を比べてみると、確信度が大きく異なることが分かる。

- (6) a. 「アルマゲドン」面白くない？
b. 「アルマゲドン」面白いんじゃない？

(6a)の例文では、話し手が映画「アルマゲドン」を以前見たことがあって、確信を持って、「面白い」と相手に伝えようとしている。しかし、(6b)の場合は、確信度が弱く、予想が含まれている。さらに、聞き手は「発話者はアルマゲドンをまだ見ていない」という印象を初めに受ける。「～ない？」は確定事項、「～んじゃない？」は不確定事項である、という仮定が成り立つ。

しかし、次に挙げる例のように状況を設定すると、「～んじゃない？」については経験済、未経験、どちらの場合でも言うことができる。

- (6) b'. (予告編を見ながら)アルマゲドン面白いんじゃない？

- (6) b". (映画の途中で)アルマゲドン面白いんじゃない？

(6b')では、まだ見ていないが面白そうだね、という予測を表す。これに対し(6b'')のように、今体験していることについて話す場合に、「～んじゃない？」という表現を使うと、「なかなか面白いと思う。」という投げやりな印象を与える。なお、「～ない？」を使った(6a)に、未経験である、という状況を付け加えると、次の例のように許容されなくなる。

- (6) a'. *(予告編を見ながら)アルマゲドン面白くない？

以上見てきたように、「～ない？」の形で表現される否定疑問文は、自分が直接感じたことや経験したことに対してでないと使えないが、「んじゃない？」の形は、経験していても経験していなくても使うことができ、未経験の場合は予想として、経験したことがある場合は投げやりな意見として聞き手に受け取られる。

では、過去形の場合はどうだろうか。

- (7) a. この映画面白くなかった？
b. この映画面白かったんじゃない？

(7a)では、話し手が見たことのある映画について、「面白かった」という感想を述べている。過去形の「～なかった？」を使った場合には、「～ない？」よりも押し付ける感じが減り、聞き手に共感を求める意味が強くなる。また、(7b)の例文では、「～んじゃない？」を使っているにも関わらず、話し手が経験したことについて感想を述べている意味となる。そして、(6b)よりも投げやりであるという印象が強くなる。(6)の例文のように現在形を使った場合、「～んじゃない？」の例(6b)では、話し手がまだ経験したことが無く予測を述べている、という意味が先行していたが、過去形を使うと、経験済みのことに対して投げやりな意見を述べている、という意味で使われることが多い。話し手が経験していないことに対して、過去形で「～んじゃない？」を使うと、(7b)のように、他人の様子を見て、面白かったのだろうと予測した意味になる。

- (7) b' (あんなに嬉しそうな顔をしているなら)この映画面白かったんじゃない？

しかし、このような表現が使われることは少なく、「～んじゃない？」を過去形で使った場合はやはり経験したことについて感想を述べる人が多い。

これらのことから、「～ない？」を使う場合は現在形、過去形に関わらず、話し手が直接経験した事に対して確信を持って意見を述べており、「～んじゃない？」を使う場合は、

現在形では、経験済・未経験の事柄どちらにも使うことができるが、話し手が経験したことのない事柄に対して予測しているのだ、という印象を第一に与える。過去形では、逆に、経験したことがある事柄について投げやりな意見を述べる場合に使われることが多くなる。

2.1. 副詞との共記

「～んじゃない？」の形は不確定な予測に基づくため、普通の疑問文とは一緒に使うことができない副詞と一緒に使うことができる。次の例を見てみよう。

- (8) a. *その料理、**多分**美味しいですか？
b. その料理、**多分**美味しいんじゃない？
c. *その料理、**多分**美味しくない？
- (9) a. *その料理、**もしかしたら**美味しいですか？
b. その料理、**もしかしたら**美味しいんじゃない？
c. *その料理、**もしかしたら**美味しくない？

(8a)、(9a)のように、普通の疑問文では不確定な副詞は使うことができない。しかし、(8b)、(9b)のように「～んじゃない？」という表現では使うことができる。また、同じような意味を持つはずの「～ない？」という表現では、(8c)、(9c)の例のように使うと意味が通じない。このことから「～ない？」という表現は「～んじゃない？」よりも確定的であると考えられ、前節までの仮定をより確かなものとする。

2.2. 未経験

未経験の事柄について述べる場合は「～んじゃない？」が使われることがこれまでの考察で分かった。では、未経験であるにも関わらず「～ない？」が使える例は無いだろうか。次の例を見てほしい。

- (10) a. ***まだ食べたことないけど**、あの店のグラタン美味しくない？
b. **まだ行ってないけど**、ロフト行ってみたいくない？

(10a)は、これまでの例と同様、「～ない？」を、未経験のときに使うと許容されない。しかし、(10b)の例では、未経験であっても「～ない？」も使うことができる。これはなぜだろうか。この場合、「行ってみたい」と思っているのは自分自身であり、さらに、今の自

分の感情である。つまり、(10a)の例で言う「美味しい」は食べてみなければ分からない事柄であるが、「行ってみたい」は発話者の気持ちであるため、予想ではなく、発話者が確かに伝えたいことである。ゆえにこの表現が許容されることは妥当である。未経験の場合に「～ない？」が使われる例とは言えない。従って前節までの仮定を覆すことはできない。

よって、この章では、「～ない？」は話し手が経験したことがあり確信を持っている事柄に対して意見を主張する手段として使われ、「～んじゃない？」は未経験の場合には予測、経験したことがある場合には投げやりな意見を述べる手段として使われることが分かった。

3. 感動の度合い

前章までで、未経験や話し手の意見では無いことに対して「～ない？」は使いにくく、「～んじゃない？」が使われることが多いことが分かった。そこで本章では、上昇調のイントネーションで発話される否定疑問文が持つ大きな意味である「驚きや感動」の程度について比べてみることにする。

- (11) a. *今の料理、彼が作ったんだから美味しくない？
b. ??今の料理、彼が作ったんだから美味しいんじゃない？

(11a)は自分が食べてみた後で、彼が作ったんだから美味しいでしょ、と意見を伝えたという状況を想定して読んでみても、「～ない？」が使えない。前節からの仮定によれば、(11a)の例文は、話し手が直接経験したことに対する感想を述べているので許容されるべきである。原因は何によるものか、接続詞を変えてみることで探ってみよう。

- (12) a. *今の料理、彼が作ったので美味しくない？
b. ??今の料理、彼が作ったので美味しいんじゃない？
- (13) a. 今の料理、彼が作ったけど美味しくない？
b. 今の料理、彼が作ったけど美味しいんじゃない？
- (14) a. 今の料理、彼が作ったのに美味しくない？
b. 今の料理、彼が作ったのに美味しいんじゃない？
- (15) a. 今の料理、もし彼が作ってたら美味しくない？
b. 今の料理、もし彼が作ってたら美味しいんじゃない？

- (16) a. 今の料理、思ったより美味しくない?
b. 今の料理、思ったより美味しいんじゃない?

このように様々な接続詞で繋いでみると、法則性が見えてくる。非文になった(11a)、(12a)では、接続詞カラおよびノデが使われているため、前半部分は後半部分の根拠として扱われる。となると、発話者にとって「彼が作った料理 = 美味しい」というのは当然の前提である。元々、上昇調の否定疑問文は、驚きや感動など強い感情を表す表現であるため、接続詞カラ、ノデなどの順接の接続詞と共に使うことに違和感があるのだ。そこで、ノニヤケドなどの逆接的な接続詞と共に使うと、予想に反した、という驚きや感動が伴う為、否定疑問文が使われやすい。また、これら(11)から(15)のb「～んじゃない?」を使った例について注目してみると、aの「～ない?」ほど、感動の度合いに強い制約は無いようだ。bの文は順接の場合も、aの時ほどの違和感はない。

3.1.皮肉の意味

「～んじゃない?」には感動の意味は含まれず、予測や投げやりという不確かな意味を含むことが分かった。そこから派生して、ただ単に投げやりなだけではなく「認めてあげてもよい」という意味が加わり皮肉っぽくなる例がある。(17)を見てほしい。

- (17) a. あなたが作ったにしては美味しくない?
b. あなたが作ったにしては美味しいんじゃない?

比べてみると、(17a)は素直に美味しいと感動していると受け取れるが、(17b)には皮肉がこもっている。次の例を見るとよく分かる。また、(18)の例では、どちらも「可愛い」という褒め言葉を発しているにも関わらず、聞き手に与える印象が全く違う。

- (18) a. 君、かわいくない?
b. 君、かわいいんじゃない?

(18a)は驚くほど可愛いと褒めているが、(18b)は「可愛いことを認めてあげてもいい」と投げやりな態度だと受け取られてしまう。

3.2.丁寧語

前節の考察から、「～んじゃない?」には投げやりなだけではなく皮肉っぽさも含まれることが分かった。そのため、立場が下の人から上の人へ、この「～んじゃない?」という表現を使うことはごく稀である。丁寧語を使ってこれらの上昇調否定疑問文を表現してみると以下ようになる。

- (19) a. この料理美味しくないですか?
b. *この料理美味しいんじゃないですか?

(19a)のように「～ない?」を使った場合は、素直に驚いて美味しいと感嘆しており、後輩が先輩に「美味しいですよ」と伝えたい時などに使うことができる。しかし、(19b)になると、普段使われることは無い非文である。元々、自分の予測や投げやりな意見を伝える表現である「～んじゃない?」は、丁寧語を用いても目下の人から目上の人へ言うのは失礼であると捉えられ、使われることはないようだ。

4.話し手と聞き手の知識や感情の相違

前章まででは、話し手が経験したことがあるのか、無いのかに焦点を絞って論じてきた。上昇調の否定疑問文には、相手に自分の意見を主張し、共感してもらいたいという意味がある。ここまでの例文では、相手がどう思っているか、という部分には触れずに考えてきたが、本節では聞き手の感情が話し手の知識や感情とどのように関係しているのかを調べる。

4.1.話し手と聞き手の知識の相違

話し手がどのような知識を持っているのか、また、聞き手にどのような知識を要求するのかをここでは考察する。話し手と聞き手が持つ情報の違いによってどのような意味の変化が現れるだろうか。(20)の例文を使い考えてみよう。

- (20) a. ドラえもんって面白くない?
b. ドラえもんって面白いんじゃない?

まず、これまでの考察により、「～ない?」という表現を使う場合、既に経験したことがある事柄について話し手が聞き手に共感を求める。つまり、(20a)では話し手がドラえもんを見たことがある、という状況で発話される。そこで、聞き手がドラえもんを見たことが

ある人間だった場合、(20a)はこれまでの考察どおり共感を求める意味で受け取られる。しかし、聞き手がドラえもんを知らない人間だった場合、非文となる。つまり、「～ない？」という表現を使う場合、話し手は、聞き手も自分と同じ情報を持っていることを期待する。次に「～んじゃない？」という表現については、これまでの考察より、話し手が経験したことがあってもなくても使うことができる。よって、4通りの状況が考えられる。まず、話し手も聞き手もドラえもんを知っている場合、(20b)は投げやりな意見として受け取られる。次に、話し手はドラえもんを見たことがあるが聞き手は見たことが無い場合も、投げやりな意見として受け取られる。逆に、話し手はドラえもんを見たことが無いが、聞き手は見たことがある場合に(20b)を使うと、「面白いのではないか」と予測している文として受け取られる。最後に、話し手も聞き手もドラえもんを知らない場合、(20b)は話し手が予測した文として受け取られる。つまり、「～んじゃない？」を使う場合、相手が情報を持っていても持っていなくても使うことができる。話し手が情報を持っているかいないかで意味は変わるが、相手に要求する知識に関しては、特に制約は無く、相手を知っているか知っていないかが、この表現を使って自分の予測を述べることができる。「～ない？」を使った文は聞き手に共感を求め、自分と同じ意見になってほしい、という強い意志が働いているため、相手が全く知らない事柄に対して意見を求めることはできず使うことができない、ということが分かる。逆に「～んじゃない？」の場合は、あくまで自分の予測を述べているだけで、相手に何かを働きかける力は持っていないため、相手の知識を期待しない、ということが分かる。

4.2. 話し手と聞き手の感情の相違

次に、話し手と聞き手の感情の相違によって、文にどのような影響があるか調べてみよう。

- (21) a. 木村拓哉がかっこよくない？
b. 木村拓哉がかっこいいんじゃない？

話し手が、木村拓哉がとてがかっこいいと思っている場合、聞き手が木村拓哉の事をどう思っているかに関係なく、(21a)を使う。逆に、かっこいいと思っているのに(21b)を使うと、相手に押し付けるほどの威力は無く、感情が伝わりにくい。また、話し手が木村拓哉をとてがかっこいいと思っているにも関わらず、聞き手が否定的であった場合は、(21a)を使うことで、相手に反論することができる。次に、話し手は木村拓哉はかっこいいと思っていないが、聞き手が木村拓哉がかっこいいと思っていることを知っている場合、(21b)を使うと、投げやりな意見、もしくは「認めてあげてもいい」という意味を伝えることができる。

このことから、「～ない？」の表現には、相手を押し切るほどの強い感情や意志が込められていることが分かる。逆に「～んじゃない？」を使うと、強い意志は無く、「認めてあげてもいい」と言った投げやりな感情が含まれていることが分かる。

まとめると、自分がその事柄に対して相手に強く共感を求めたり、主張したい場合には「～ない？」を使い、その事柄に話し手自身の思いが強くない場合や、意見が食い違った時に聞き手の意見に賛成してあげよう、という場合に「～んじゃない？」を使う。

4.3. 話し手の感情

本節では、「話し手が思っている」のか、「思っていない」のか、という区別で考えてみたい。(22)の例が分かりやすいだろう。

- (22) a. 寒くない？
b. 寒いんじゃない？

(22a)では、今現在寒い、寒すぎて驚いた、というように、話し手が寒い、と感じているという印象を与える。しかし、(22b)では、「来週遊びに行く山は寒いだろう」という予想や、「一緒にいる人が薄着で寒そうだ」という意味になり、話し手が寒いと思っているかどうかは分からない。主語を加えた例文で考えてみよう。

- (22') a. *ジロウ寒くない？
b. ジロウ寒いんじゃない？

- (23) a. ジロウかっこよくない？
b. ジロウかっこいいんじゃない？

なぜ(22'a)は許容されず、(23a)は許容されるのだろうか。(22'a)に関しては、ジロウが寒いと思っているかは話し手には分からないことであり、予測として発話されている。これまでの考察より、「～ない？」という表現には予測の意味は含まれないので、(22'a)は非文になる。これに対して(23a)では、ジロウがかっこいいと思っているのは話し手自身であり、予測では無いため、「～ない？」という表現を使うことができる。これと同じように、話し手がどう考えているのかで使い分けができる例を探してみた。次の例文で、誰が合宿に行きたいと思っているのか、という部分について考えてみよう。

- (24) a. 合宿行きたくない？

b. 合宿行きたいんじゃない？

(24') a. *ジロウ合宿行きたくない？

b. ジロウ合宿行きたいんじゃない？

(24a)は、話し手に行きたいという気持ちがあった上で、それを聞き手にも共感してほしい、と働きかける意味になる。しかし、(24b)の場合、話し手の気持ちは分からないが、第三者が行きたいと思っていることを予測している。(24'a)の例文のように、「～ない？」の文を第三者が思っていることを予測して発話すると非文となる。このことから、「～ない？」という表現はあくまで話し手主体である、ということが分かる。話し手がどう思っているか、どう感じているかを、聞き手に伝え、共感してほしいと働きかけるのが、「～ない？」という表現である。それに対し、「～んじゃない？」という表現では、第三者が思っていることを予測して代弁することが可能であり、話し手がどう思っているのかに関係なく発話することができる。このように、「～ない？」を使うと話し手自身の意見や気持ちを表し、「～んじゃない？」を使うと、話し手の意志とは関係の無い事柄について話している印象が強い。

この章全体を通して、「～ない？」には聞き手に自分の意見を強要し、働きかける力を持っているのに対し、「～んじゃない？」は予測や投げやりな意見のため、相手に働きかける力を持っていないということが分かった。

5.文法的な観察

最後に、今まで述べてきた仮定が、どのような品詞にも当てはまるのかを調べてみることにする。まずはどのような品詞と共に使われるのか例を挙げて考えてみよう。

5.1.主語の人称による違い

会話文のため、あまり主語が現れることは無いが、隠された主語としてよく現れるのはやはり三人称であり、三人称のことを誰かに対して話すときに使われることが多い。しかし、次のように、他の人称のことについて話す時も使うことができる例もある。

(25) a. 私かわいくない？

b. 私やればできるんじゃない？

(25a)、(25b)のように、自分のことについて相手に意見を主張する場合は、自画自賛の意味

が強く含まれている。少しふざけた感じになり、自尊の意が込められる。また、次の(26a)、(26b)のように、二人称に対して直接自分の意見を主張する場合も許容される。

(26) a. 君かわいくない？

b. あなたならできるんじゃない？

このように、主語には様々な人称を取ることができるが、4.3 節の考察により、これらの文を話し手がどのように考えているのかによって、「～ない？」を使うのか「～んじゃない？」を使うのが決定する。

5.2.品詞による違い

品詞によってこれらの上昇調の否定疑問文の使われ方は異なるのだろうか。本節では、共に使われる品詞について詳しく調べる。

形容詞は、「～ない？」「～んじゃない？」のどちらに対しても使うことができる。感情の動きを表す上昇調の否定疑問文と共に使われる言葉の中で一番多く見られるのがこの「形容詞」である。

(27) a. 嬉しくない？

b. 嬉しいんじゃない？

(28) a. 寒くない？

b. 寒いんじゃない？

形容詞の中では、(27)のように自分の感情を表すものだけでなく、(28)のような状態を表すものも使うことができる。

その他、名詞・形容動詞を使う場合には、「～ない？」と直接結びつけることはできないので、間に「じゃ」が入られる。

(29) a. あそこにいるの山本じゃない？

b. あそこにいるの山本なんじゃない？

(30) a. 夏といえばやっぱり海じゃない？

b. 夏といえばやっぱり海なんじゃない？

名詞を使う場合、人や物を見つけた時にそれが何だと思うか、という自分の意見を述べる場合や、質問をされた答えとしての意見を述べる場合に使われる。これまでの分析同様、「～じゃない？」を使った場合は、その答えに発話者が自信を持っており、相手に強く伝えようとしているが、「～なんじゃない？」を使った場合は、答えに曖昧さが残る。また、次の例のように形容動詞を使った場合の意味も、他の品詞の場合と同様である。

- (31) a. この花綺麗じゃない？¹
b. この花綺麗なんじゃない？

これらの品詞を観察した限り、「～ない？」「～んじゃない？」の使われ方に大きな違いも無く、これまでの考察結果が当てはまる結果になった。

5.3. 動詞の動作性・状態性

しかし、動詞はこれまで見てきた品詞とは少し異なり、許容されにくい。動詞と共に使う場合には、その動詞が動作を表す動詞であるか、状態を表すであるかで意味合いが異なってくる。まずは、「～ない？」という表現と動詞を組み合わせた例である。

- (32) a. 英単語覚えない？
b. この風ならロウソクの火消さない？
- (33) a. あいつなら英単語覚えてない？
b. この風ならロウソクの火消さない？

(32)では動作を表す動詞と、(33)では状態を表す動詞と組み合わせた。(32)では、相手を誘う文として受け取られてしまい、今回論じている「意見を主張する」「共感を求める」意味ではなくなってしまう²。しかし、(33)のように状態を表す動詞と組み合わせると、これまでに述べてきた自分の意見について述べる否定疑問文として受け取ることができる。

次に、「～んじゃない？」と動詞を組み合わせた例を見てみよう。

- (34) a. ?彼なら英単語覚えるんじゃない？

¹ 形容動詞と「～ない？」を一緒に使った場合、「この花綺麗くない？」のように「～くない？」という表現も観察される。これは若者の形容動詞の活用に多く見られる傾向である。

² この「勧誘」の意味を表す文は、若者言葉というわけではなく、広く一般的に使われる文である。

- b. ?この風ならロウソクの火消すんじゃない？

- (35) a. 彼なら英単語覚えてるんじゃない？
b. この風ならロウソクの火消えるんじゃない？

(34)のように、動作を表す動詞と「～んじゃない？」の組み合わせは許容されにくい。それに対し、(35)の例文のように状態の動詞と組み合わせた文は許容されやすくなる。つまり、「～ない？」「～んじゃない？」どちらの表現であっても、動詞と一緒に使う場合は、状態を表す動詞と一緒に使われるのが一般的であるようだ。では、動作を表す動詞と共に、全くこの表現を使うことができないのだろうか。さらに詳しく調べてみよう。

上で述べたように、動作を表す動詞と一緒に「～ない？」を使う場合は同意を求める文として許容されず勧誘の意味になることが多いことが分かった。しかし、助動詞を付け加えることによって許容される例もある。

- (32') a. 英単語覚えられない？
(34') a. ?彼なら英単語覚えられるんじゃない？
(36) この距離なら走れない？
cf. ??この距離なら走らない？
(37) このこと誰かに言いたくない？
cf. ??このこと誰かに言わない？
(38) この料理食べられない？
cf. ??この料理食べべない？

(36)、(37)、(38)の各 cf の文では、勧誘の意味でしか読み取れないのに対して、(36)、(37)、(38)の各文の場合には、自分の意見を主張する用法として読み取ることができる。さらに、自分の意見を主張する意味だと受け取りやすくするには、状況を設定するために文を付け加えればよい。

- (36') フルマラソンは無理だけどこの距離なら走れない？
(37') 口止めされているけどこのこと誰かに言いたくない？
(38') ちょっと量は多いけどこの料理食べられない？

逆接の文を追加することによって、許容度が上がる。これは、3章で述べたように驚きや

感動を表し、予想外であるという意味が付け加えられる為である。

次に、誰が動作するのかという観点で考えてみる。

- (39) a. あの子が食べない?
b. あの子が食べるんじゃない?
- (40) a. *僕が食べない?
b. *僕が食べるんじゃない?

(39)のように、他者が動作することに対して発話する場合は、動作を表す動詞と共に使うことができるのに対し、(40)のように、自分が動作する場合はそのままでは許容されない。ただし、自分が動作する場合でも、まだ実行していないことに対しての予想や意見である場合には、次の例が示すように、動作を表す動詞と共に使うことができる。

- (41) a. 僕なら食べられない?
b. 僕なら食べられるんじゃない?

助動詞を使うことで自分の動作に対する意見や予想という意味が加えられるため、許容されるのであろう。

さらに、誰に対しての意見なのかに注目してみよう。

- (42) a. ちょっと量は多いけど(一緒に)この料理食べない?
b. ちょっと量は多いけど(あの選手なら)この料理食べない?

(42a)のように、目の前にいる聞き手がする動作に関わる意見を言うと、一緒に食べよう、と誘う意味になる。しかし、これを(42b)のように話し手でも聞き手でもない第三者がする動作に関わる意見を言うと、あの選手ならあれくらいの量は食べるよね、と聞き手に自分の意見や予想を伝える表現となる³。このことから、(42a)のように、直接目の前にいる聞き手がする動作に対してこの表現を使うと「勧誘」の意味になり、(42b)のように、聞き手とは関係の無い第三者の動作に対しての意見や予想の場合には、かなり投げやりな意見として伝えられることが分かる。

以上のことから、「～ない?」「～んじゃない?」という表現は、基本的に自分の目の前にある「状態」について、自分の意見や予想を述べる表現である、ということが分かる。動作を表す動詞を使えるのは、他人がしていることに対しての意見を言う場合のみであり、

³ 「勧誘」の意味は「～ない?」にしか含まれない。

自分が動作をする場合には使えない。これは、自分がする動作に対して、意見や予想をすることが非現実的であるからだと考えられる。そのため、自分の動作に対して言う場合は、助動詞を伴うなど、自分の意見や予想である、という表現を追加しなければならない。「～ない?」「～んじゃない?」と一緒に使うことができるのは、客観的に見ることができると言える。

6.まとめ

以上の考察により、上昇調のイントネーションで発話される否定疑問文を、代表する二つの表現についての意味機能を明らかにすることができた。どちらも相手に同意を求める似通った表現だと考えていたが、それぞれ大きな特徴があることが分かった。

まず、両表現の共通点は、否定疑問文であるにも関わらず肯定的な意味を相手に伝えようとする点である。否定疑問文を上昇調で発話することによって、肯定的な意味をより強調して相手に伝えることができる。

次に、異なる点であるが、まず二つの表現の間で根本的に違っていた点は、伝えようとしていることについて、話し手が経験したことがあるのか、未経験なのか、という点である。「～ない?」は、話し手が経験したことがある事柄について、自分の意見や感想を相手に強く伝えようとする表現であった。これに対して「～んじゃない?」は、まだ経験したことが無い事柄について、話し手が予想を立て聞き手に伝える用法と、既に経験済みの事柄に対して、投げやりな意見として聞き手に伝える用法があることが分かった。投げやりな感情が強いため、丁寧語と共に使われることは無く、目上の人に対して使うことはできない。また、「～ない?」は、聞き手に自分と同じ知識があることを期待した上で発話されるが、「～んじゃない?」は、聞き手に同じ知識が無くても発話することができた。これらのことから、「～んじゃない?」の方が「～ない?」よりも広く使うことができるため、予測や投げやりな感情が強く、「～ない?」ほどの相手に働きかける力を持っていないことが分かる。「～ない?」は、聞き手に自分と同じ意見になってほしい、という強い力を持っているのに対し、「～んじゃない?」は、あくまで自分の予測を述べているだけで、相手に自分の意見を強要する働きは無かった。

以上の考察にもとづいて、「～ない?」は、話し手主体の表現であり、話し手自身がどう考えるかを相手に伝え、強調し同意を求める力を持つ表現であるということ、そして、「～んじゃない?」は自分以外の人や事柄について予測を立てたり、自身が経験したことに対して投げやりに意見を述べる表現であるということを中心とした。

謝辞

本論文の執筆に当たり、担当教官の上山あゆみ先生にはご多忙の中、丁寧なご指導をしていただきました。深く感謝の意を表します。また、貴重なアドバイスをしていただきました九州大学院生の田中大輝氏をはじめ、九州大学言語学研究室の皆様にご心より感謝いたします。

<参考文献>

- 奥田靖雄(1984) 『おしはかり(1)』 日本語学 3-12 pp.54-69
神尾昭雄(1990) 『情報のなわ張り理論 言語の機能的分析』 大修館書店
国立国語研究所(1960) 『話し言葉の文型(1)-対話資料による研究-』 秀英出版
田野村忠温(1988) 『否定疑問文小考』 国語学 152, pp.109-123
仁田義雄(1991) 『日本語のモダリティと人称』 ひつじ書房
南不二男(1985) 『質問文の構造』 朝倉日本語新講座 朝倉書店
三宅知弘(1994) 『否定疑問文による確認要求的表現について』 現代日本語研究, pp.15-26
三宅知弘(1996) 『日本語の確認要求的表現の諸相』 日本語教育 89号, pp.111-122
森山卓郎(1992) 『日本語における「推量」をめぐって』 言語研究 101号, pp.64-81